



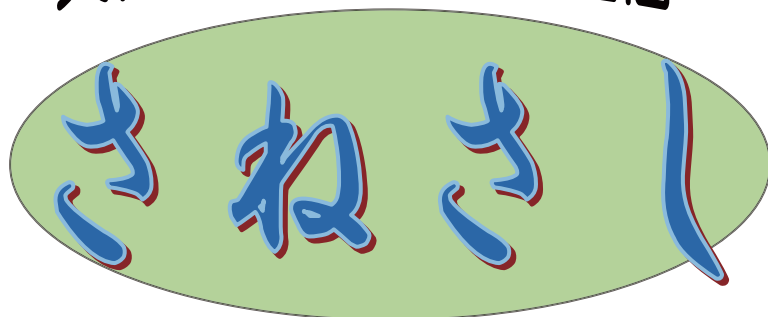
発行

令和5年3月31日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

津久井観音霊場の秘仏と文化財

旧津久井郡には津久井観音霊場 43 札所があります。以前は津久井三十三観音霊場と番外霊場と呼称されていましたが、平成2年本開帳以降は津久井観音霊場として 43 番まで通番になりました。午歳うまどしに本開帳、子歳ねどしに中開帳として観世音菩薩かんぜおんぼさつを拝観できます。直近では平成 26 年 5 月に午歳で本開帳されましたが、令和 2 年子歳の中開帳はコロナ禍のため中止になりました。

この津久井観音霊場には観世音菩薩の秘仏をはじめ、寺仏や境内に徳本念仏塔など有形文化財が多くあります。昨年 9 月、第 8 番札所友林寺ゆうりんじの「鉄造聖観音菩薩立像てつぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう」と第 12 番札所祥泉寺しょうせんじの「木造阿弥陀如来立像もくぞうあみだによらいりゅうぞう・木造薬師如来立像もくぞうやくしによらいりゅうぞう・木造千手観音菩薩立像もくぞうせんじゆかんのんぼさつりゅうぞう」が新たに市有形文化財に指定されました。

友林寺の 1 像は鉄製の仏像で、14 世紀（鎌倉時代後期から南北朝時代）の作です。鉄仏はこの時期東国を中心に流行しましたがその数は少ない中で、本像は完成度が高く、神奈川県でも希少なものです。

祥泉寺の 3 像は境内の鎮守社、熊野神社に熊野三所権現本地仏ほんじぶつとして祀られていました。3 像とも本体・台座を一木から彫り出し、内削りはせず彫眼ちようがんされています。16 世紀（室町時代）の作風にふさわしいとのこと。これらの文化財の説明については、市 HP の相模原市指定文化財のページに記載されています。

津久井観音霊場の中には顕鏡寺けんきやうじの「木造阿弥陀如来坐像せいげんじ」、井原寺の「木造聖観音菩薩立像」、他に武相観音霊場札所になっている普門寺ふもんじの「木造聖観音菩薩立像」などが市文化財に指定されています。

日頃から拝観できる仏像もありますが、普段拝観できない秘仏と寺宝が蔵出しされたりします。御開帳の時はぜひ観音霊場巡りをしてみましょう。

今年は武相観音霊場が 4 月 1 日～ 4 月 30 日まで卯歳うどし「開扉かいひ」され、相模原市に 8 札所があります。



写真 1 友林寺の鉄造聖観音菩薩立像



写真 2 祥泉寺の木造阿弥陀如来立像ほか 2 像

◀ 令和 4 年 9 月 30 日付け
相模原市指定文化財に新たに
指定された 2 件
（『津久井町史』文化遺産編より）

※ 拝観の際は事前に連絡が必要
友林寺 042-784-1221
祥泉寺 042-784-0196

（津久井班 土屋）

古民家園普及事業紹介 陽だまりの縁側で歴史講演を聴く

戦国武将として名高い武田信玄の四女として生まれた松姫^{まつひめ}、その数奇な生涯を演題としての講演会を、令和4年(2022)11月27日午後、緑区大島の相模川自然の村公園内にある相模原市古民家園で開催しました。この古民家は、南区の青柳寺^{せいりゆうじ}にあった江戸時代中期の庫裡^{くり}を移築したもので、県指定重要文化財として平成10年(1998)から公開されています。講師は相模原郷土懇話会会長の^{おおぬきひであき}大貫英明氏で、当日は初冬とはいえ穏やかな日和でした。

コロナ禍ということもあり参加者は20人と限定されましたが、著名な戦国武将の武田氏滅亡に関わるものであったことと、お隣の八王子市にゆかりのあるものであったので、皆さんは興味深げに聞き入っていました。

古民家園の縁側は初冬の午後、陽だまりとなり暖かい日差しが降り注ぎます。そこで大貫講師の提案

もあり、参加者は皆さん縁側に座り初冬の日差しを浴びながら、織田方の探索から逃れ転々とする松姫の逃避行に聞き入りました。

今は桜で有名な^{たかとお}高遠^{にらさき}～^{あんげとうげ}葺崎～^{かみおんがた}大月～^{きんしょうあん}案下峠を越えて八王子の上恩方にある金照庵に身を寄せることとなりました。この地で22歳という若さで出家、^{しんしょうに}信松尼という尼僧となります。この間、徳川家ともいろいろと関わり、元和2年(1616)4月、家康の死の前日に56歳で亡くなりました。八王子には^{せんにんどうしん}「千人同心」という組織ができますが、これには武田氏の遺臣も多く関わりがあるようです。

講演会の終わるころは、初冬の夕暮れが近づいており、古民家園の庭には雪虫(しろばんば)が群れて飛んでいました。まるで数奇な生涯を終えた松姫を憐れむようでした。

(古民家園事業実行委員会 久保田)



写真1 相模原市古民家園 秋空の下、陽だまりの縁側で歴史講演を聴く

伊勢原の史跡を訪ねて ～日向薬師と道灌塚～

秋晴れに恵まれる中、東部班では伊勢原市にある日向薬師と道灌塚を巡りました。

日向薬師は霊亀2年(716)に日向山霊山寺として行基が開創したと伝えられる寺院で、後に宝城坊と呼ばれるようになりますが、現在は日向薬師と略称され、日本三薬師の一つに数えられています。仁王門から山道を登り、階段を上がると眼前に荘厳な本堂が現れます。平成23～28年にかけて大改修を受けた本堂の茅葺屋根は特に壮観で、一見の価値があります。古来より天皇の帰依を受け、鎌倉時代には源頼朝や北条政子に篤く信仰され、頼朝が政子の安産祈願のため神馬を奉納したことや、娘の大姫の病気平癒祈願のため、北条義時・大江広元・梶原景時・和田義盛・三浦義澄・畠山重忠・八田知家やその他大勢の御家人達を伴い参詣したことが吾妻鏡に記されています。

日向薬師のご本尊は平安時代に作られた鉾彫りの薬師如来三尊像で、1月1～3日(初詣り)・1月8日(初薬師)・4月15日(本尊開扉大法会)のみの開帳のため、今回は残念ながら実物を拝見することはできませんでしたが、開帳時にはたくさんの人が訪れるとのこと(県立歴史博物館にはレプリカがあります)。しかし、宝物殿には数多くの国指定重要文化財が展示されており、それぞれが非常に見ごたえのあるものでした。

日向薬師からの帰り、途中の道灌塚で下車し、道灌塚や大山道に立ち寄りしました。太田道灌は室町期

の武将で、文武に優れ、主家扇谷上杉家の勢力を拡大させた立役者でありました。しかしながら、文明18年(1486)に主人である上杉定正に館に招かれ暗殺されます。伊勢原市上粕屋は扇谷上杉氏の本拠である糟屋館があった場所と推定され、現在の上粕屋神社や産業能率大学の付近一帯と思われます。刺客に襲われた道灌が「当方滅亡」と叫んだ話は有名ですが、近くにある洞昌院には太田道灌の胴塚があり、少し離れたところに道灌に殉じた従者たちを葬ったと言われる七つ塚があります。

文明8年(1476)に発生した長尾景春の乱で、道灌は景春に味方した相模の武士達の溝呂木城(厚木市)、磯部城(相模原市)、小磯城(大磯町)・小沢城(愛川町)を降し、小机城(横浜市)も攻め落としました。このように相模原市にもゆかりのある太田道灌が最期を迎えた地を訪れ、往時を偲ぶ巡検となりました。(東部班 及川)



写真2 太田道灌墓所



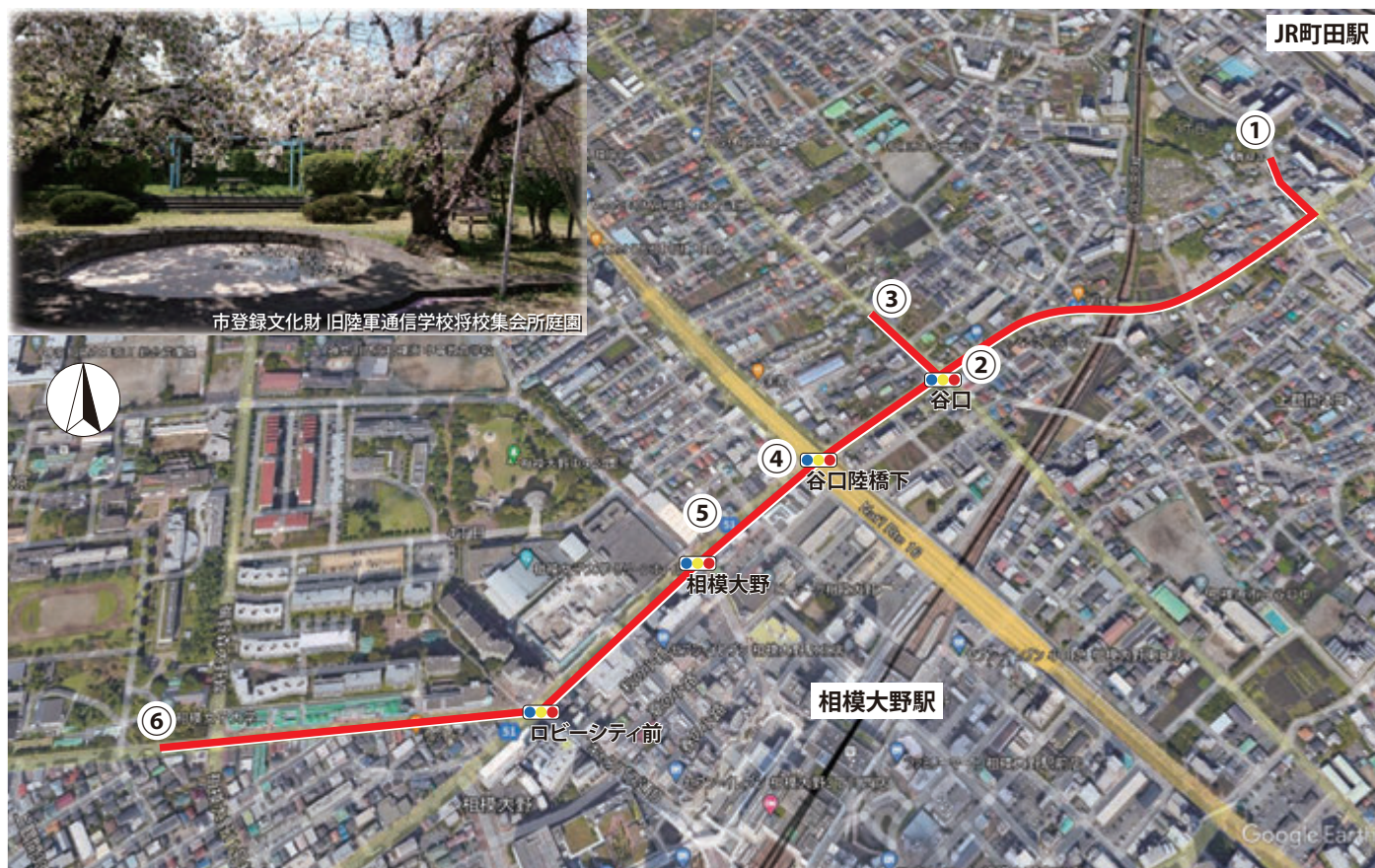
写真1 日向薬師 宝城坊 本堂



写真3 東部班参加者

行幸道路沿道文化財を巡る

今回は、行幸道路(JR町田駅から米陸軍座間キャンプ(旧陸軍士官学校)迄約7km)沿道文化財を巡ります。行幸道路は、戦時中陸軍士官学校の卒業式に昭和天皇が行幸されるために整備された道路の通称です。



鹿島神社 (地図①)

創建は建久年間(1190-1199)に遡るとも云われ、文禄3年(1594)谷口の領主渋谷義重が「鹿島大明神を我が屋敷内に移し奉り守護神とした」と記録にあり、享和元年(1801)谷口住民の「鹿島神社遷座願」を聞き届け、参詣し難い境川沿い下森から現青柳寺境内に遷座し、明治元年(1868)神仏分離まで青柳寺住職が社務一切を行いました。

青柳寺 (地図①)

主君足利義昭と意見が合わず領地に戻った渋谷義重は、天正11年(1583)日蓮上人を開山に日蓮宗寺院を建立しました。明治17年(1884)、上鶴間と周辺の農民300人が負債解消を求め境内に集まったのが、その後数ヶ月武相を揺がす武相困民党の先駆けで、渋谷一族も加わり、記念碑「武相困民党発祥之地」が境内にあります。

題目塔 (地図②)

池上本門寺の日蓮像の冬の「おとし服」奉納講(谷口他7ヶ村)が文化9年(1812)建立した「南無妙法蓮華經」を正面に刻んだ塔です。

谷口山野稻荷神社 (地図④)

安永3年(1774)既に谷口郷霊現閣が祀られ、嘉永7年(1854)正月、京都伏見稻荷大社より正一位蚕守大明神の神号を授与され、養蚕の神として尊崇されました。

渋谷翁算子冢の碑 (地図③)

江戸末から明治初め、算木(木製棒の計算用具)による高等算を究めた渋谷廣行翁を偲ぶ弟子達が形見に頂いた算木を埋め、その上に石造りの頌徳碑を建てました。

奉仕記念碑 (地図⑤)

陸軍士官学校は昭和12年(1937)正月に市ヶ谷から座間に移り、同年12月の卒業式までに行幸道路の一応の完成を間に合わせました。

将校集会所及びフランス庭園 (地図⑥) (写真)

昭和14年(1939)4月陸軍通信学校が杉並から移り、鉄道駅も開業しました。陸軍の星のマーク付マンホールや防空壕跡も残っています。将校集会所は、一部修理されながら、ほぼ原状を留めると言われます。その前の庭園は、貴重なフランス式建築です。

完成翌年の昭和13年(1938)7月から11月まで行われた道路改修工事には男女青年団員等延べ8,516名が勤労奉仕し、その功績を讃える記念碑が昭和14年(1939)に建立されました。

なお、庭園見学には、相模女子大学警備室で事前の手続きが必要です。

昭和天皇による行幸はお召列車により行われ、原町田駅(現JR横浜線町田駅)で乗降し、昭和19年(1944)迄で8回を数えました。

(東南班 窪田)

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371